

環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：鹿児島県奄美市

活動地域：奄美市及び奄美大島一円

活動におけるテーマ・キャッチコピー

“生業” “暮らし” “景観”の

循環共生システムの構築

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



奄美市版マングラ（R1最終報告時案）



課題
施策
事業
効果

地域のビジョンを実現するための成果指標

◆『奄美市まち・ひと・しごと創生総合戦略』において目指すべき地域の姿
「しあわせの島」

◆地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

・離島のトップランナーとして、地域資源の循環システムを構築します！

短期目標

長期目標

環境

ゴミ減量に向けた機運醸成事業（+2回）

環境美化推進団体助成（+33団体）

住民の環境意識の醸成

ごみ総排出量の削減（▲2.5%）
ごみ資源化率の向上（+4.6%）

経済

バイオマス活用勉強会参加者数（100人）

バイオマス活用研究会参加者数（10人）

新産業の創出

バイオマス活用事業雇用者数（10人）
エネルギー代金流出額（▲1億円）

社会

地域交流等派遣事業参加児童生徒数
（+15人）

奄美市が主催する地元関連講座等への参加者数
（+200人）

ふるさとへの誇りの定着

奄美の良さを実感している児童生徒の割合
（98%）

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

1	事業の名称	バイオマスを活用した液肥製造	
	事業の概要	<p>当市はたい肥センターを運営し、たい肥の島内自給率の向上に努めているが、農家の土づくり意欲の向上などにより、地域内製造たい肥が不足している状況である。そのため、地域内でのたい肥（液肥）の生産・供給が必要である。そのため、島内で排出される有機物系廃棄物（バイオマス）を活用した液肥（消化液）を製造することで、地力向上のための資材の地域内自給率の向上を図る。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資源量の詳細調査が必要。 ○事業化に向けたイニシャル・ランニング試算 ○反当たり液肥散布可能量の詳細検討及び需要確認
2	事業の名称	バイオマスを活用した電力事業	
	事業の概要	<p>外海離島である本市においては、本来的には島内での廃棄物処理を完結させる循環システムの構築が必要であるが、その実現に至っていない。</p> <p>このことから、バイオマス発電に関して想定される地域の優位性を発揮し、有用な資源を活用することで、脱炭素化と地域経済循環を図りたい。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資源量の詳細調査が必要。 ○事業化に向けたイニシャル・ランニング試算 ○地域内企業等の連携に向けた出資割合等検討 ○液肥（消化液）保存のコスト等は未算定。 ○生ゴミの効率的な収集システムの構築
3	事業の名称	ゴミ減量に向けた機運醸成事業	
	事業の概要	<p>世界自然遺産にふさわしい島づくりを進める上で、リサイクル率を向上させ「環境の島」のブランディングを図るとともに、バイオマス活用に向けた有機系廃棄物の確保を目指す。</p> <p>そのため、市民に身近なリサイクルの取組を進めることにより、リサイクル意識を向上させ、ゴミ減量に向けた機運を醸成する。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生ゴミ等分別収集に向けた機運醸成。 ○生ゴミの効率的な収集システムの構築

今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

今年度の成果

(本事業に取り組んで良かったこと)

- 当初提案時には、「ビジネス的観点」からのバイオマス活用のみを考えている面がありましたが、本事業をとおして、バイオマスの活用は「環境的視点」や「社会的視点」が必要であるとの気づきを得た
- 今回の事業を活用して勉強会を開催することで、地域の中にも少なくない企業関係者がバイオマス活用に興味・関心を持っていることが明らかになった

今後の意気込み

- **地域内で事業化するために“一歩”踏み込んだ取組を進めたい！！**
(庁内の整理は済んだ。次は民間へ、奄美大島へ、奄美群島へ)

地域の活動の上での課題

- 地域版マングラと地域上位計画との整合
- 地域のステークホルダーの明確化